

浦和学院の皆様へ

先日は子供達のため遠方にも関わらずご招待して頂き
ありがとうございました。

小6.3の息子達が子鹿クラブでお世話になっています。

兄は最後の年、副キャプテンとしてのシーズンが始まろうとしていた時、
大震災が起りました。避難した家族は無事でしたが2日目水も引
き始め多数の犠牲者とがレキ、シヤビシヤのかわらなくなる程
の町の惨状とやっとたどり着いた我が家を目の前に呆然と立ちつくしました。
子供達の大事な物、小さい頃からの思い出、家のほとんどの津波が
のめ込んでしまいました。自宅の事が心配で気が付いた息子達を連れて
行けたのはそれから3週間たった頃、それでもまだ安置できず道路脇
に横たわる犠牲者に手をあわせ、変わり果てた自宅を目の前にした
息子達は気丈にも泣き止まず、ただ唇をかめしめ、必死で耐えよう
とする姿、今も忘れることができません。

全てにおいて、これだけどうなるのか心配でしたが全国各地からたくさん
の支援と励ましを受け、助けられ生きていく希望がもてました。それが私達に
とってはどれ程の支えと力になったかはとて言葉ではあらわしません。

そして最大の力を身えてくれたのは、数日は食べる事もままならず
1ヶ月続いたライフラインがない中でも、常に笑顔で泣き事ひとつ

言わず頑張ってくれた息子達です。

そんな子供達に、今回、大好きな野球を通じて素晴らしい出会い
の場を作ってくれた浦和学院の皆様本当にありがとうございました。
野球部の選手にとっては春のセンバツに向け練習しているにも関わ
らず、温かくむかひ入れ、子供達と同じ目線で優しくしていただけた
事は、きっと子供達にとって一生の宝物として心に残ると思います。

1.2年生の選手の方は甲子園、3年生の皆さんは進学、社会人へと
進む、これからのご活躍を石巻の地からずっと応援しています。
小6の兄の進学する渡波中は被災のため、となり町の小学校に仮設
校舎が建てられました。大好きな野球の活動もままならない事でしょう。
しかしあの日お世話になったお兄さん達の努力している姿を忘れずに
目標に向いキラキラ輝いてほしいと思います。

私も帰りにハイタッチをしてくれた皆さんの頑張りと努力の証と
勲章でもあるまめだらけの手の感触を決して忘れません。

本当にありがとうございました。

またお会いできたらうれしいです。

母 芳賀 広子

子 海斗, 悠太

息子達は昔のことばかりたくさんあるようで、
あとからお兄さん達へ迷ったそうです。